

## 年頭あいさつ

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。本日は、蕪崎市議会議長を始め、市議会議員の皆様のご臨席を賜り、厚く御礼を申し上げます。議員並びに職員各位におかれましては、ご家族とご一緒に、和やかに良きお正月をお迎えになったことと思います。平成19年、西暦2007年の年頭にあたり、職員の皆様に仕事始めの挨拶を申し上げます。昨年、11月19日に行われた、蕪崎市長選を通じ、多くの市民の皆様と接することができたのは大変貴重なものでした。市民と直接向き合い、様々な生のご意見、ご要望をお聞きできたことは、今後の市政を考えていく上での大きな財産となりました。市長に就任し、一ヶ月余りたちますが、一層気が引き締まる思いで新年を迎えました。本市では、光ファイバーケーブルなど高度情報通信網の導入も進み、ボーダレスなコミュニケーションが可能となり、蕪崎市を全国、全世界へアピールする基盤も整いつつあります。すばらしい歴史と未来を併せ持つ都市として、私は本市が発展していくことにおおいに期待を持っています。しかし、このような世の中の進化のダイナミズムには目を見張るものがある一方、懸念すべき事象も同時に頻発していることも考慮しなければなりません。たとえば昨年の全国でいじめによる児童生徒の痛ましい事件です。次代を担う人づくりを進めていく、私にとりましては非常に残念であります。慌ただしく進歩していく世の中で、かけがえのない、人と人との温もりや、安らぎを失いかけていることは否定できません。家の中でも外部とのコミュニケーションがとれる昨今では、人と人とのふれ合いは少なくなっているように思われます。かけがえのない価値とは、日ごろより学校・家庭・地域が連携して子供を見守り、子供と触れ合い、子供に声を掛け、どんな小さなサインも見逃さないようコミュニケーションを図ることの大切さではないでしょうか。多発するいじめ事件を受けて、政府が行なった教育再生会議でも地域連携の重要性を強調しています。幸いにして本市にはこのかけがえのない価値が生き続けています。子供からお年寄りまで地域の人たちが触れ合いを持てる環境があるのは、全国に誇れることではないでしょうか。私たちはこの文化を絶やしてはなりません。また、市民と共に応援しておりますヴァンフォーレ甲府が、昨年J1に昇格し、数々の名勝負を繰り広げるなか、見事に残留を成し遂げたことは、地域を挙げてのサポーター活動が選手たちに勇気を与え、それに答えてくれた結果であり、本市のキッズ・サッカープロジェクトの園児たちにも大きな励みとなりました。このように、地域の触合いによる力は、大きな力を生み出すものなのかもしれません。私は、一人ひとりが支え、支えられ、人の優しさと安らぎを実感できる市政を目指し、家族の絆、地域の絆、また、市民と市政の絆を大切にしていかなければならないと考えます。ではどのように実現をしていったらよいのでしょうか。私たちが守るべき基本姿勢は、公平・公正で透明性の高い開かれた行政執行であります。市政の基本は、市民と行政がお互いの信頼関係と協力関係が育つことであり、「市民から信頼され、愛される市政」これこそが市政の基本でなければならぬと考えております。このためには自らを厳しく戒め、安易な妥協を排し、公平・公正でなければなりません。是非、職員の皆さん方におかれましても信頼関係及び協力関係が構築されることを期待するところであります。このことが近隣市町村、さらに県に広がり、国全体に広がるのが私の理想であり実践していかなければと思うところであります。私の座右の銘は「桃李不言 下自成蹊」と言う漢詩であります。この漢詩は桃や、スモモは喋らないが、きれいな花を咲かせます。その花の下には黙っていても美しい花を見に人たちが集まってきます。要するに、すばらしい人物のもとには自然に人が集まってくるということをたとえていることであります。職員の皆様に考えて頂きたいことがございます。市政の直接の窓口になっているのは誰なのでしょう。それはまさに職員なのです。市民の声、表情など、五感で蕪崎市民を感じる事ができるのはまさに職員の皆様です。市民とのフェイストゥフェイスから得られる情報は、蕪崎市をよりよい市に変えていくためのかけがえのないデータベースなのです。そしてそのデータベースから導き出される仕事への取り組み方は蕪崎市を大きく変えていく可能性がありま

す。職員としてこの点を意識して頂きたい。自分の仕事が蕪崎市を変えていく、そんな気持ちを持ってもらいたいと私は考えます。そのためには蕪崎市をこう変えていきたいという夢と失敗を恐れない勇気を持って頂きたいのです。最後になりましたが、良い仕事をするには、何よりも健康が大事であります。健康管理には十分留意していただき、皆様方にとりまして、平成19年が幸多いすばらしい一年となりますことを心からお祈り申し上げ、年頭にあたっての私の挨拶といたします。